

講義コード	515105603	
講義名	社会的養護I EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	5時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	女子短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
専任教員	坪井 真	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

### 授業の概要

社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを専門家（保育士など）が支援する取り組みです。そこで本授業は、現代社会における社会的養護の意義と制度・実施体系、社会的養護の歴史の変遷および現状と課題、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本などを学び、社会的養護の基本と重要性を理解します。

### 授業の到達目標及びテーマ

様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する社会的養護の基本を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。

- (1)現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解し、説明できる。
- (2)社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明できる。
- (3)社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解し、説明できる。
- (4)子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解し、考察することができる。
- (5)社会的養護の現状と課題について理解し、考察することができる。
- (6)主体的な姿勢で予習・復習およびアクティブラーニングに取り組むことができる。

また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。

さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「1. 諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「8. 地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。

### 授業計画表

#### 社会的養護I

回	担当教員	項目	内容	予習	復習

第1回	坪井真	社会的養護の理念と概念	①授業のガイダンス ②社会的養護の理念と概念（演習を含む）	皆さんが本学の学びで得た関連知識および報道などで関心をもった関連事項などを振り返り、子ども家庭支援の特徴を再確認してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第2回	坪井真	社会的養護の歴史の変遷	様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支える社会的養護の歴史（その変遷と特徴）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第3回	坪井真	社会的養護の基本原則	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本原則を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第4回	坪井真	社会的養護における保育士等の倫理と責務	様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支える支援者（保育士等）の職業倫理と責務を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第5回	坪井真	社会的養護の制度と法体系	現代の日本における社会的養護の制度と法体系（その特徴と実際）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第6回	坪井真	社会的養護の仕組みと実施体系	現代の日本における社会的養護の仕組みと実施体系（その特徴と実際）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第7回	坪井真	前半の確認テスト	第1回から第6回の学習内容を振り返り、理解したことや考えたことを整理する確認テストに取り組みます。	前回の授業終了時に確認テストの予習箇所を提示します。第1回から第6回に該当する教科書や参考資料を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	確認テストの解答内容を振り返り、第1回から第6回の授業で学んだことを復習してください。
第8回	坪井真	社会的養護の対象	現代の日本における社会的養護の対象（支援を必要とする子どもたちや家族の状況と支援課題など）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第9回	坪井真	家庭養護と施設養護	社会的養護における家庭養護と施設養護の特徴（それぞれの分野における支援形態や支援者など）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第10回	坪井真	社会的養護に関わる	現代の日本で社会的養護を担う専門職（保育士など）の特徴と実際を学びま	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してくださ	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習

		専門職	す。	い。	してください。
第11回	坪井真	社会的養護に関する社会的状況	現代の日本における社会的養護の状況（施設養護の課題と改善策など）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第12回	坪井真	被措置児童等の虐待防止と社会的養護	現代の日本における被措置児童等の虐待防止と社会的養護の役割を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第13回	坪井真	社会的養護と地域福祉	現代の日本における社会的養護と地域福祉（地域を基盤とした社会福祉）の関係性を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第14回	坪井真	後半の確認テスト	第8回から第13回の学習内容を振り返り、理解したことや考えたことを整理する確認テストに取り組みます。	前回の授業終了時に確認テストの予習箇所を提示します。第8回から第13回に該当する教科書や参考資料を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	確認テストの解答内容を振り返り、第8回から第13回の授業で学んだことを復習してください。
第15回	坪井真	総括	①第7回の授業で取り組んだ前半の確認テストおよび第14回の授業で取り組んだ後半の確認テストを解説します。 ②第1回～第13回の学習内容を振り返り、本科目全体の振り返りとまとめに取り組みます。	第1回～第13回の授業で学んだ内容（教科書や資料、自筆ノートなどの該当箇所）を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	本科目全体（第1回～第13回）の学習内容を振り返り、理解したことや考察内容を復習してください。

### 授業時間外の学修

#### 【予習】

次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には90分かかると想定されます。

第1回の予習は、皆さんが本学の学びで得た関連知識および報道などに関心をもった関連事項などを振り返り、社会的養護の特徴を再確認してください。

第2回以降の予習（但し、確認テストを実施する第7回・第14回は除きます）は、前回の授業終了時に教科書などの予習箇所を提示します。

#### 【復習】

授業に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には90分かかると想定されます。なお、復習の成果は各自の成績評価に活用します。

各回の授業内容（但し、確認テストを実施する第7回・第14回は除きます）に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。

### 実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

### ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	◎	○

## ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
課題解決能力	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができるとともに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり、他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり、他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している
レポート力 (復習も含む)	テーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使った分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析がなされている	テーマについての分析がなされていない

## 成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験	70%	定期試験 (期末試験) で授業内容全般の理解度を評価します。
小テスト等	0%	
成果発表	0%	
授業への貢献度	0%	
レポート	0%	
その他	30%	演習の成果、確認テスト (2回)、復習の学習成果により、学習状況を総合的に評価します。

## 課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題 (レポート等) について	模擬授業、プレゼン、発言等について
------------------	-----------------	-------------------

授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する
<b>ICTを活用した双方向型授業の内容</b>		
チャット メール等の活用		
<b>アクティブラーニングの割合</b>		
総授業時間数の30%程度のアクティブラーニングである		
<b>アクティブラーニングの内容</b>		
<b>書く・話す・発表する等の活動におけるAL</b>	<b>経験値・技能を高める活動におけるAL</b>	<b>授業時間外におけるAL</b>
グループワークのディスカッションやディベート (議論の場と時間) 小テストや授業内レポートの活用	PBL(課題解決型授業)	授業後レポート
<b>教科書</b>		
本科目は以下の教科書を使用します。 相澤譲治・他「子どもと社会的養護の基本」(学文社 12,000+税)		
<b>参考書</b>		
適宜、紹介します。		
<b>SDGsとの関連</b>		
4. 質の高い教育をみんなに		
<b>特記事項等</b>		
【科目のナンバリング】 SOB2302		
<b>学生へのメッセージ</b>		
家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の基本と重要性を理解してください。		
<b>研究室(訪問先等)</b>		
中央研究棟 230 研究室		
<b>授業用E-mail</b>		
<a href="mailto:tsuboi@sakushin-u.ac.jp">tsuboi@sakushin-u.ac.jp</a>		
<b>成績評価法</b>		
① 定期試験(期末試験)で授業内容全般の理解度を評価します。(全体の70%) ② 演習の成果、確認テスト(2回)、復習の学習成果により、学習状況を総合的に評価します。(全体の30%)		